

第6課 買物 (その1)

1. この課のねらい

- (1) スーパーマーケットやデパート、小売店で買物ができるための具体的な言い方を学ばせる。
- (2) 商品の有無、売り場の位置、値段、買う分量などについて質問や確認、指示ができるようにする。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話一〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○あの、すみません。お茶は、どこにありますか。(1)	○ええと、お茶は……ああ、あそこのコーヒーのところですよ。(2)
重要項目	○中国茶も ありますか。(3)	

(2) 準備

- ①種々の店や売り場、商品の絵や写真、さらに、デパートなどの売場案内や広告を用意する。
- ②お店屋さんごっこができるように部屋の机や椅子を配置する。
- ③また、練習で学習者を実際の店屋に連れ出す場合は、事前に店屋に事情を説明して協力を求めておくといよい。
- ④さらに、デパートや文房具屋、金物屋などで、物の在りかを尋ねる応用会話を作り、録音しておく。

(3) 導入

- ①会話本文のテープを聞かせて、繰り返させたり、「お茶は、どこにありますか」「中国茶もありますか」などと質問してみる。ここでは、「あそこのコーヒーのところですよ」というような完全な答は要求しない。教授者の質問が理解できて「あそこ」とか「コーヒーのところ」とかの表現で反応が返ってくればよい。
- ②その後、用意した絵や写真、あるいは広告を出して、「あの、すみません。～はどこにありますか」という表現を用いて二、三質問をしてみる。「～は～売場ですよ」とか「～階

です」とかいう答が出てくる必要はないが、最低その商品の名前が聞き取れ、写真などの中で見つけて指させるかどうかぐらいは確認する必要がある。

(4) 練習

①予習が十分行われていれば、会話本文をロールプレーで行う。本は開かず、売り場の写真や絵を使って会話練習を行う。例えば、教授者がスーパーマーケットの写真を見せて、「ここは、スーパーマーケットです。～さんは～を買います」と言う。学習者が林夫人、教授者が店員の役を行い、教授者は「～は、このつきあたりの右側です」とか「～は～コーナーです」とかいろいろ表現をかえ、必要ならば手で方向を示したりして場所を教える。

②予習が不十分であれば、〔1. 表現練習 a〕を使って、まず「～はどこにありますか」の表現を定着させる。「ここ・そこ・あそこ」の使い方に問題があれば〔同練習 b〕や、その応用を使った練習をし、また、「ここ・そこ・あそこ」が定着していなければ、第3課の〔2. 会話練習〕を復習する。

③〔1. 表現練習〕が十分に言えるようになったら、「あそこのコーヒーのところにあります」のような表現も練習しておくといよい。その後、〔2. 会話練習〕を使って「～も」のに入った会話に拡大する。

④「あります」が定着したら、次は同様にして「います」を練習し、さらに「いらっしゃいます」も導入し練習する。〔3. 表現練習〕〔4. 会話練習〕を使う。また〔4. 会話練習〕の「います」を「いらっしゃいます」にかえた練習も行う。）

⑤「あります」「います」「いらっしゃいます」のそれぞれが定着したら、その使い分けについての選択練習（「コーヒー」というキューで「あります」、「山本さん」というキューで「います」を選択させる練習）や、完成練習（「コーヒー」というキューで「コーヒーがあります」、「山本さん」というキューで「山本さんがいます」と、文を完成させる練習）などで確認する。

⑥練習が十分にできたら、実際に近くの店に行くなり、学習している場所を利用するなりして、人や物の位置について質疑応答を試みる。

教室の外で学習者になるべく多くの日本人と話せるように導くことが大切である。

〔会話一 2〕

(1) 学習項目表

区分	使 用	理 解
最重要項目	○このたまねぎと、そのにんじん一袋 ください。(2) ○あ、ピーマン ありますか。(4)	○すみません。ピーマンは 売り切れなんです。 [*] (5)
重要項目	○じゃ、いいです。(6)	^{**} いらっしゃい。(1)

* ピーマンはないということを確認させる。ほかにもいろいろな表現が考えられるが(例:「～は置いてないんですが…」「～はちょうど切らしちゃってるんですが…」)その一字一句が分からなくても、要するに有るのか無いのかが理解できればよい。

** 店だけではなく、一般の家庭や職場などで来客を迎える際のあいさつの表現として使われることに触れておく。〔会話一 4〕の「いらっしゃいませ」も同様。

(2) 準備

①八百屋・果物屋・文房具屋・金物屋などの小売店の写真や、そこで売られている商品の絵や写真を用意する。商品が種類ごとに並べられているものが望ましい。値段や品名などが付いているとなおよい。

②また、店や買う物をかえた応用会話を作り、テープに録音しておく。

(3) 導入

①用意しておいた絵や写真を使って、八百屋や果物屋などの場面を設定し、学習者に買物をさせてみる。教授者が店員になり、「いらっしゃい。何にしましょう」と言って、学習者に何をかうか決めさせる。このとき、物の名称、数え方なども導入する。

②あるいは、会話本文及び、その応用会話のテープを聞かせて、どこで買物をしているのか、何を買ったかなど質問して、学習者がどのぐらい理解しているか確かめていってもよい。

③また、〔会話一 2〕〔会話一 3〕は同じ場面なので、続けて導入してもよい。

(4) 練習

①予習が十分行われていれば、会話本文のロールプレー、あるいは、場面をかえた応用会話の練習を行う。

②「この・その・あの」に問題がある場合は、実物や絵、写真を使って、

・たまねぎ――→このたまねぎをください。

・にんじん――→そのにんじんをください。

というような練習をする。また、

- ・これはたまねぎです (30円) →このたまねぎは30円です。
- ・これはにんじんです (50円) →このにんじんは50円です。

のような単純な置きかえ練習 (あるいは実物や絵などをキューとして使ってもよい。この場合値段が分かるようにしておく。) も必要ならやっておく。

③助数詞については、日常生活で使用価値が高いものは、学習者の能力と必要度に応じて身に付けさせるが、最低「ひとつ、ふたつ、……」は言えるようにしておく。

(〔5. 表現練習〕及び「3. 文型・文法に関する参考事項(3)」参照)

なお、「にんじんを一袋ください」の語順や文型が定着していない場合は、第5課の〔3. 表現練習〕の形を使った練習などで復習する。

④「ピーマン (は) ありますか」については、「ピーマン (は) どこにありますか」との違いを明確にしておく。

「～さんはいますか」「～さんはどこにいますか」などの形でも練習できる。

〔会話－3〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○おいくらですか。(1)	○ええと、75円と 130円で 205円 ……200円で いいです。(2)

(2) 準備

〔会話－2〕と同様、小売店やそこで売られている商品の絵や写真、さらに電卓やそろばん、お金も用意する。

(3) 導入

〔会話－2〕と同じ場面なので続けて導入できる。実際に学習者にお金を持たせて支払いをさせてみるとよい。

(4) 練習

①「75円と130円で205円……200円でいいです」は、必要であれば第5課の〔4. 会話練習〕に戻って練習する。

②会話本文の形でロールプレーができるようになったら、〔会話－2〕、〔会話－3〕と続けて一つの場面で会話練習を行う。十分に練習ができたなら、近くの小売店に行って実際に買物をさせてみる。この際、問題のある学習者については、あらかじめ買う物を

決めて十分に練習をさせておいてから行かせ、自信を付けさせることが重要である。

〔会話一 4〕

(1) 学習項目表

区分	使 用	理 解
最重要項目	○豚の小間切 300グラムください。 (2)	○少し 多いけど いいですか。(3)
重要項目	○310グラムですね、いいですよ。(4)	○いらっしゃいませ。(1)

(2) 準備

①肉屋の陳列ケースの絵が写真を用意する。「豚小間切、100g、200円」などという表示が付いているとよい。そのほかに、お金、量り、量る物(肉の代用になるような物)も用意する。

②教室内の机や椅子の配置を考える。また、学習者を肉屋に連れ出す場合は、その手配をしておく。

(3) 導入

〔会話一 2〕と同様、肉屋の場面を設定し、教授者が店員になり、学習者に買物をさせてみる。教授者は、「少し多いけどいいですか」の類の質問をし、学習者の理解の程度を調べる。また、肉の名称など必要な語彙を導入する。

(4) 練習

①「豚の小間切300グラムください」については、〔会話一 2〕の「このたまねぎとそれにんじん一袋ください」の練習を参照。

②「少し多いけどいいですか」は、まだ形容詞を学習させていないので、ここではそのままの形で覚えさせる。形容詞を知っている学習者については、「短い」→「少し短いけどいいですか」のような表現練習が可能である。また、これに答える表現として、「～グラムですね」と確かめ、「いいですよ」と承諾するやり方を覚えさせておくに立つ。

③個々の項目が確認できたら会話全体の練習に戻る。実際に量りを使って重さを量ったり、お金のやりとりをしながら行うのが望ましい。初めは、教授者が肉屋の役をするが、途中から学習者同士で会話させてもよい。練習が十分できたら実際に肉屋へ行かせるとよい。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) ある・いる／いらっしゃる

「ある」、「いる」の使い分けを確実にする。「いらっしゃる」は「いる」の尊敬形であるが、同時に「行く」、「来る」の尊敬形でもある。また、「いらっしゃい(ませ)」という形で、来客を迎えるときのあいさつとしても用いられる。([会話-2]、[会話-4] 参照)。

(2) _____は_____にあります(います／いらっしゃいます)

物や人についてその存在の場所を表す表現「_____は_____です」はその短い形。場所を表す表現にはいろいろあるが、この課ではまず「こ・そ・あ」系を定着させる。また、「先生は職員室にいらっしゃいます」のような、場所名を使った表現も練習する。「机の上」「病院の前」などの表現は、第8課で学習することになっているが、学習者の程度によってはここで少し触れておいてもよい。なお、「_____に_____があります」の形は、実際場面での使用が非常に限られているし、学習者の混乱を招くおそれもあるので、ここでは取り上げない。

(3) 助数詞

助数詞にはひとつ・ふたつ方式のものと1(いち)・2(に)方式のものがある。数多い助数詞の中で基本的で使用頻度の高いものから導入していく。前課までに、番、円、枚、そして、この課で〜つ、本、袋、グラム、切、山が出ているが、このほかにも必要だと思われるもの(例：冊、杯、度、個、〜り/人)については、学習者の能力に応じて、表などで使い方や音の法則を整理するとよい。語順と助詞の位置に注意させること。

助数詞一覧 (その2)

区分	1	2	3	4	5
〜つ	ひとつ	ふたつ	みっつ	よっつ	いつつ
人	ひとり	ふたり	さんにん	よにん	ごにん
本	いっぽん	にほん	さんぽん	よんぽん	ごほん
個	いっこ	にこ	さんこ	よんこ	ごこ

6	7	8	9	10
むっつ	ななつ	やっつ	ここのつ	とお
ろくにん	なな(しち)にん	はちにん	きゅうにん	じゅうにん
ろっぽん	なな(しち)ほん	はっぽん	きゅうほん	じっぽん
ろっこ	なな(しち)こ	はっ(はち)こ	きゅうこ	じっこ

11	20	21
じゅういち	にじゅう	にじゅういち
じゅういちにん	にじゅうにん	にじゅういちにん
じゅういっぽん	にじっぽん	にじゅういっぽん
じゅういっこ	にじっこ	にじゅういっこ